



法学部独自の奨学金制度  
「やる気応援奨学金」を利用した  
学生の体験をご紹介します

奨学金でフランスへ

私は2019年度後期のやる気応援奨学金フランス語部門で、パリに留学させていただきました。本場の生きたフランス語を学ぶとともに、現地の町や人の様子を実際に見ること、そしてかねてから関心のあつた国際機関を見学することを目的としました。

私はフランス語の学習歴が1年と浅く、現地で生活できるようなレベルではありませんでした。英語が通じない場所も多く、最初はコミュニケーションに苦労しました。しかし、語学学校やホームステイなど、現地での生活を通して、少しずつフランス語で聞く、話すことができるようになりました。1日ごとに自分の語学力が向上し、現地の人と会話ができるようになってい



国際機関の施設を見学しました

フランス語の学習

私はパリの語学学校に3週間通いました。語学学校のクラスは1クラス10人程度の少人数で、また自分の語学力に合わせたレベルを選んでもらえたため、とても学びやすかったです。

初級者の語学学習は、日本であれば文法事項を学び、それを機械的にあてはめる形の問題演習をするのが一般的です。しかし、語学学校では自分で文



白鳥と記念写真

章を考えたり、ときには物語を書いたりといった能動的な学習が中心でした。初めて経験したときは困惑しましたが、続けていくうちに楽しさも感じました。クラスメイトと競っておもしろい例文を考えたり、韻を踏んだ文を作ったりと、モチベーションを高く持って学習ができました。

異世界での生活

現地の生活は、毎日が驚きの連続でした。なかでも印象的だったのは、街の美しさです。パリには現代的なビルのような建物はほとんどなく、古風で美しい建物が並んでいました。テレビやアニメでしか見たことのないような世界を訪れ、実際にそこで生活するというのは、まるで夢のなかにいるよ

世界を目の当たり  
にした1カ月

住谷 祐輝

法学部政治学科2年  
東京都立三鷹中等教育学校出身

うな心地でした。しかし、パリは美しく華やかな一方で、暗い部分も持ち合わせていました。特に驚いたのは、街中のいたるところにホームレスの人が座り込んでいたことです。パリ市内ではどの駅に行ってもホームレスの人がいて、道端や公園でもたくさんの方が生活していました。日本では美しい部分、優れた部分のみが切り取られてしましますが、現地でそうではない面もさまざま見ることができました。

パリでは、人種差別に関しても多くの経験をしました。パリは驚くほどにさまざまな人種、肌の色をした人がともに暮らしています。基本的には皆が平和的に生活していますが、争いが起こることもあります。街で黒人差別の現場を目撃し、自分自身が差別的な言

動を受けたことも何度もありました。そのようなときに現地の人から言われたのは、「いちいち気にするな」ということでした。小さなことを気にしていたら身がもたないから、軽く受け流しておけばいいんだということでした。自分としては理解しがたいことではありませんが、これがパリの人々が平和に共存する秘訣なのだと思います。

## 国際機関の見学

パリに3週間滞在したあと、ブリュッセル、ストラスブール、ジュネーブに行き、EU、国際連合といった国際機関を訪問しました。ブリュッセル、ストラスブールでは、EU議会の議場を見学し、EUの歴史やシステムを学びました。そこで強調されていたのは、EUは2度の戦争を経験したヨーロッパが、それを繰り返さないために統合に動いたということでした。戦争を防ぐという目的と、統合という手段を結びつける発想は、それまでの歴史から見て画期的であることに気づき、EUの奥深さを感じました。

## EU圏での暮らし

また、これらの場所を回るなかで、最終的に計4カ国を歩き来しました。

何度も国境を渡りましたが、一度も国境検査を受けませんでした。それだけでなく、通貨もユーロとスイスフランの2種類のみで生活することができました。EU圏では、多くの国が国境検査を行わない協定を結び、また、共通の通貨を採用しています。これはよく知られたことではありませんが、実際に自分自身で経験し、その恩恵を受けることで、改めてこの制度のすばらしさや先進性を感じました。

## 終わりに

今回の留学を通して、ここに書ききれなかったことも含め非常に多くのことを学びました。そして、それは帰国後の学びや進路選択に大いに生かされています。今回の留学を支援してくださった方々、よい留学となるようさまざまなアドバイスをしてくださった先生方に感謝申し上げます。

From the Faculty of Law



法学部だより



## コロナ禍での法学部の取り組み

法学部事務室  
飯塚 卓美

法学部では、2020年度秋学期も引き続きオンライン授業が原則となっておりますが、一部面接授業を開始いたしました。このような状況に対し、法学部事務室には学生やご父母の皆さまからさらなる面接授業を望む声や、オンライン授業に対するご要望など、さまざまなご意見をお寄せいただきました。2021年度春学期に向け、法学部は多くの方にご納得いただけるような運営ができるよう準備を進めてまいります。

今回は、コロナ禍での法学部の取り組みの1つをご紹介します。

本誌11月号でもお知らせいたしました「法学部C plus

掲示板」をリニューアルいたしました。その名もTemi Co (テミコ)です。(https://sites.google.com/view/chuolaw/)

法学部の学生数は本学でも一番多く、5500人を超える規模となっております。1年生だけに絞ってみても1300人を超えます。教室の収容定員や大学の諸施設、通学などを鑑み、従来の集合型のガイダンスを行うことが難しいと判断し、2020年度春学期から順次Webを活用した案内に切り替えました。

こちらのサイトで12月から、進級時に必要な案内は動画で配信を行っています。Webの利点である、いつでも、どこでも、何度でも見ることができる動画での説明は学生からも好評です。従来型の集合したガイダンスにはない良さが、今の学生にマッチしたのでしょうか。

法学部では、今後もこのサイトを活用し、知りたいことがあっても事情があっても窓口にお越しになれない方のために、より多くの「知りたい」情報を発信し、学生のために行動します。本サイトについて「こんな情報があれば」や、「こうするともっと見やすいのでは」などなど、ご意見をお待ちしております。



トラム（市バス）で独仏国境を渡りました